

3. 研究グループの組織と運営

私達の女性部は、昭和 39 年 3 月に宗谷漁協婦人部として設立され、平成 14 年 8 月 5 日に現在の「宗谷漁協女性部」と名称を改め、現在 167 名の部員で組織されている。

部長 1 名、副部長 3 名、委員 17 名で委員会を構成し、定期的に委員会を開催し、部員の増員を図る為の未加入問題や、活発な女性部活動への取組みの検討を行っている。

組織活動としては、販促活動や植樹事業、海難防止啓蒙活動などを展開し、貯蓄推進にも地区全戸を訪問するなど積極的に取り組んでいる。

また、地元稚内市の日赤奉仕団と交通安全母の会にも加盟し、幅広く地域活動に参画している。その他にも部内の活性化や部員間の一体感を図る為に、『日帰り（もしくは一泊）旅行』や保険や年金の勉強会を兼ねた『茶話会』、農協女性部との『交流会』をこれまでに何度も開催している。

4. 研究・実践活動取組課題選定の動機

私達はこのように数多くの活動を部員全員が一致団結して行っているが、昭和 60 年から始まった『アルメリア植栽事業』がきっかけであり、今尚、25 年間継続しているこの植栽事業が現在の私達女性部活動の原点となっていることから、今回の発表課題として選定した。

5. 研究・実践活動状況及び効果

今から 26 年前の昭和 58 年 9 月 1 日未明、ニューヨーク発ソウル金浦空港行きの大韓航空機が、予定飛行コースをはずれてサハリン上空を侵犯し、サハリン基地から緊急発進したソ連の戦闘機のミサイル攻撃を受けて、モネロン島沖に墜落した。同機に乗っていた乗員・乗客合わせて 269 名（うち日本人 29 名）全員が死亡するという悲惨な事故となった。

事故現場から近い稚内市宗谷岬公園に、犠牲者の慰霊と世界恒久平和を願うモニュメント『祈りの塔』が事故の翌年の昭和 59 年 9 月 1 日に建立され、慰霊祭が執り行われた。

慰霊祭には私達女性部も参加し、深い悲しみの中で我々女性部に何か出来ないかとの意見が出て、祈りの塔の周辺にお花を植え、亡くなった方を慰霊することが検討された。

祈りの塔は日本最北端宗谷岬の高台にあり、気温は 1 年を通して低く、さらに年中強風が吹き荒れる大変厳しい環境であり、花を育てるにはとても困難な場所にある。女性部員から、耐寒性があり、強風でも花びらが飛んでしまわない寒さに強い『アルメリア』という花があるとの話があった。調べるとアルメリアは北米・ヨーロッパの寒い地域原産の花で、風の強い沿岸部でかんざしのような花を咲かせることから、和名『浜かんざし』と呼ばれていることが分かり、花言葉は『思いやり』という事も後に知った。

このアルメリアであれば成功すると確信を持ち、昭和 60 年、情報をくれた部員からアルメリア 700 株を株分けしてもらい祈りの塔の前に植えた。初めての経験で勝手がわからなかったが、わが子を育てるように 1 株 1 株心をこめて植え、風の強い日には

植えたばかりの株が飛ばされていないか心配し、凍れる冬の夜は寒さで枯れてしまわないかと眠れない夜もあったと記憶している。厳しい荒波で働く夫や息子の安全を願う気持ちを込めて植えたこの花が、春には青い芽が出ることを強く願い、立派な花をつけた時は大変感慨深いものであった。

6. 波及効果

アルメリア植栽が成功した事から稚内市、また遺族の方々からも感謝の言葉を頂き、「私達の小さな心遣いが大勢の方に喜ばれるなら」と、部員一同さらに一丸となって植栽事業に取り組むことを決意した。翌年の昭和 61 年には 3,200 株、平成元年 17,700 株、平成 3 年 33,700 株、平成 5 年 77,700 株と植栽事業を拡大し、1 年を通じて部員が浜の仕事の合間をみては平和公園に向き、植栽・株分け・草取りを一生懸命行い、辺り一面ピンクの絨毯を敷きつめるまでに成果をあげてきた。

しかし、事業を拡大する上での苦勞もあった。年々株数を増やすには株分け作業が伴うが、株分けはスコップで根ごと掘り返すことから女性にとっては大変な力仕事であり、さらに浜仕事のあとの作業であることから、体力的に非常にきつかった。また家を留守にすることが増え、家族の理解が得られない家庭もあり、女性部をやめたいと言い出す部員が出始めた。そんな部員には一軒一軒訪問し、この事業の目的を説明し、なんとか活動を続けてくれるよう理解を求めた。

アルメリア植栽事業を拡大する一方で、大韓航空機事故のような悲惨な事故が二度と起きない事を祈念し、岩ベンケイの花で 1 文字 10m 四方の大きさの『世界平和』の花文字をアルメリア畑と隣接する場所に植え込んだ。これをきっかけとして、宗谷岬公園は『宗谷岬平和公園』と名称を改めることとなった。

こうした私達の取り組みが評価され、ニューヨーク国連本部にある『平和の鐘』を世界中に設置し、平和への呼びかけを広めようという運動により昭和 63 年 6 月 18 日、『世界平和の鐘』日本第一号が宗谷岬平和公園に 81 カ国の人々から寄せられたコインやメダルを埋め込んだ鐘が設置された。これを記念したレセプションが世界 50 カ国の人々を集めて盛大に開催された。この厳しい自然の中で小さな花に託した命の尊さへの願いが世界平和を願う人々との実を結び、大きな花を咲かすことが出来、大変喜ばしいことであった。

平成 4 年には市民有志による『アルメリア稚内 21』という団体が発足し、多数の市民による「第 1 回植栽会」が開催され、私達が始めた小さな取組みが全市を挙げた運動に広がりを見せ、これをきっかけに市内の至る処にアルメリアの花が咲いている。現在ではアルメリアは稚内市を代表する花となった。

平成 6 年の北海道観光大会において、統率と団結、持続した協力・努力が地域の緑化に貢献した事が評価され、『花と緑の北海道表彰』という栄えある賞を頂くことが出来た。

平成 13 年、国連総会開催日に行われる、ニューヨーク国連本部中庭に設置されている平和の鐘の鐘打式に前女性部長と当時副部長であった私が招待された。9 月 11 日、まさにこれから平和の鐘が鳴らされようとした時に会場からわずか数キロ離れた場所の世界貿易センタービルであの同時多発テロが起きた。鐘打式は数日後に無事開催さ

れたが、世界の恒久平和への願いを込めた鐘打式の日にあのような残酷なテロ行為が行われ大きな怒りを感じた。毎年6回平和公園で行われる鐘打式ではニューヨークの悲惨なテロを思い出し、その場に遭遇した私は平和への願いがますます強くなり、このような悲惨な事故が二度と起きない事を願わずにはいられなかった。

7. 今後の課題や計画と問題点

この事業を始める前の私達女性部は、小さな蕾のようであった。

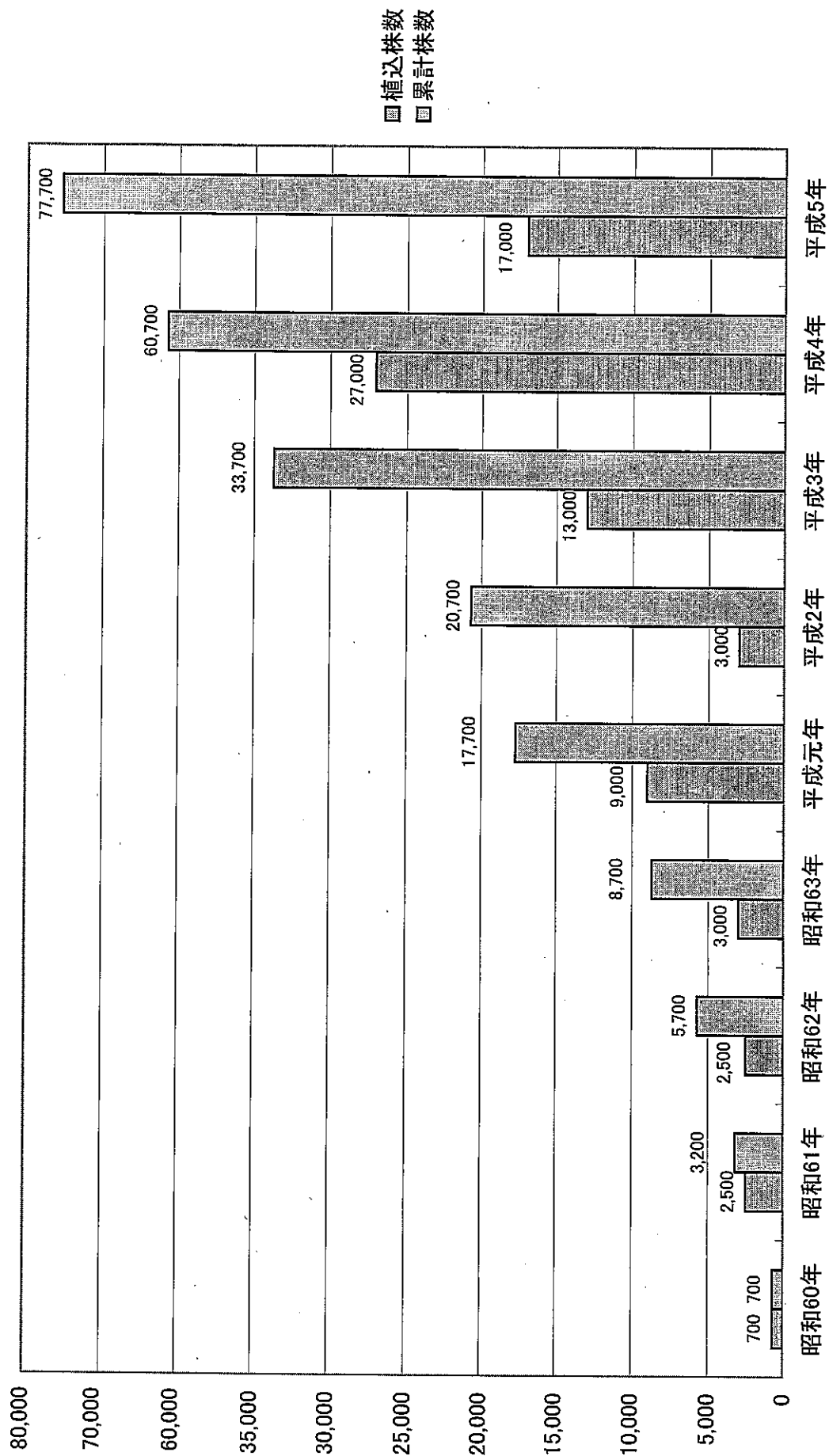
しかし、二度とあってはならない悲惨な事故をきっかけに取組んだアルメリア植栽事業で私達は一つの目的を持ち、部員全員で実行に移すことにより「組織は生きるもの、皆で育て創るもの」であることに気づき、また、多くの人々との素晴らしい出会いにより幅広い活動が展開できることを学んだ。

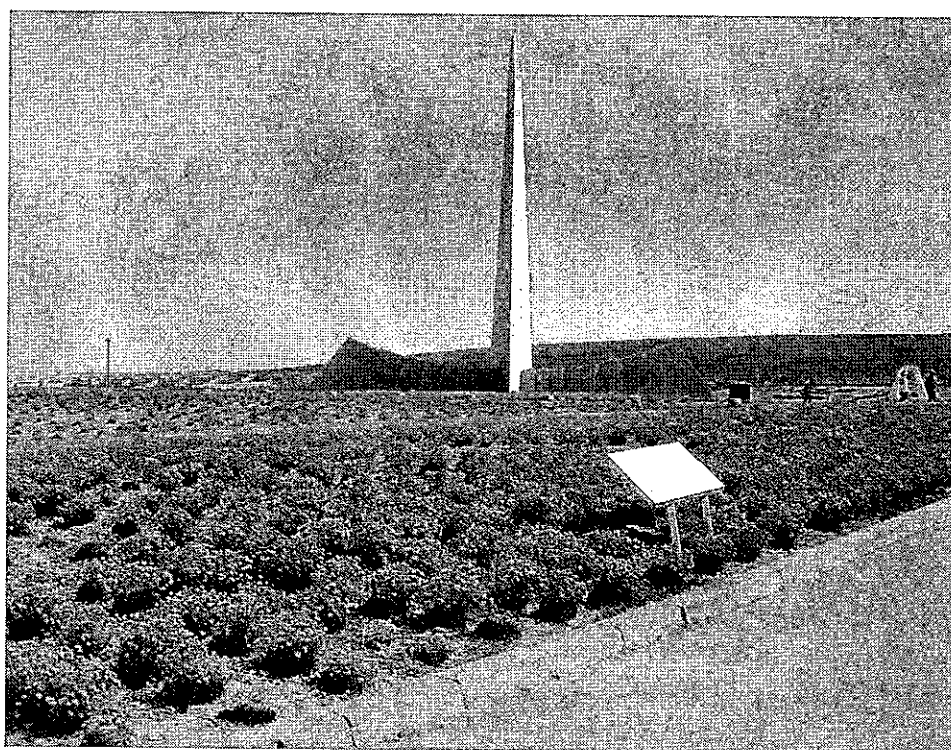
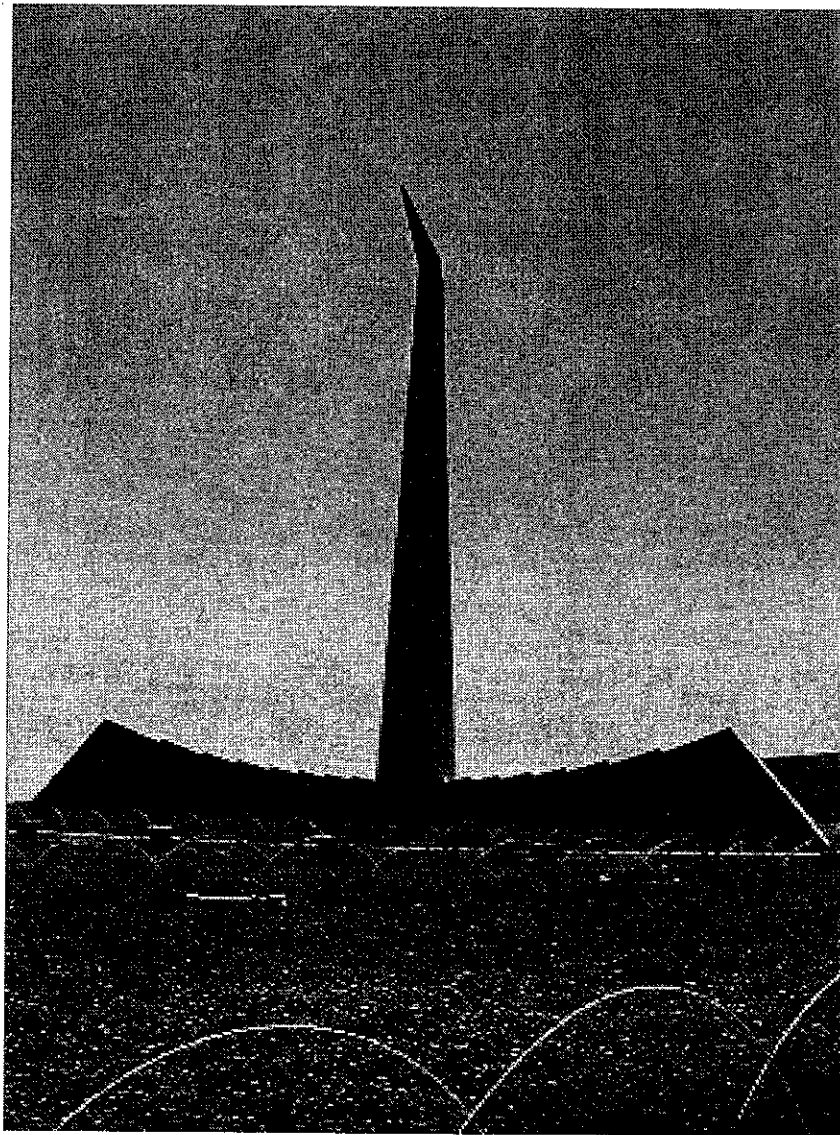
私達女性部は現状に満足することなく協同意識の向上を図り、意欲的に社会参加を目指し、明るく住み良い地域、豊かな町づくりに邁進していこうと思う。

これからも、ピンクで可憐な花が平和公園に咲き乱れたとき、私達女性部は一人一人が泥まみれとなり汗を流したことを喜びと感じ、日本最北端の小さな町から少しでも「世界平和」の思いが届くことを願い、来年も再来年も、そして永遠に咲かせて全国・全世界の方々に見て頂けるよう、さらなる活動をつづけたいと思っている。

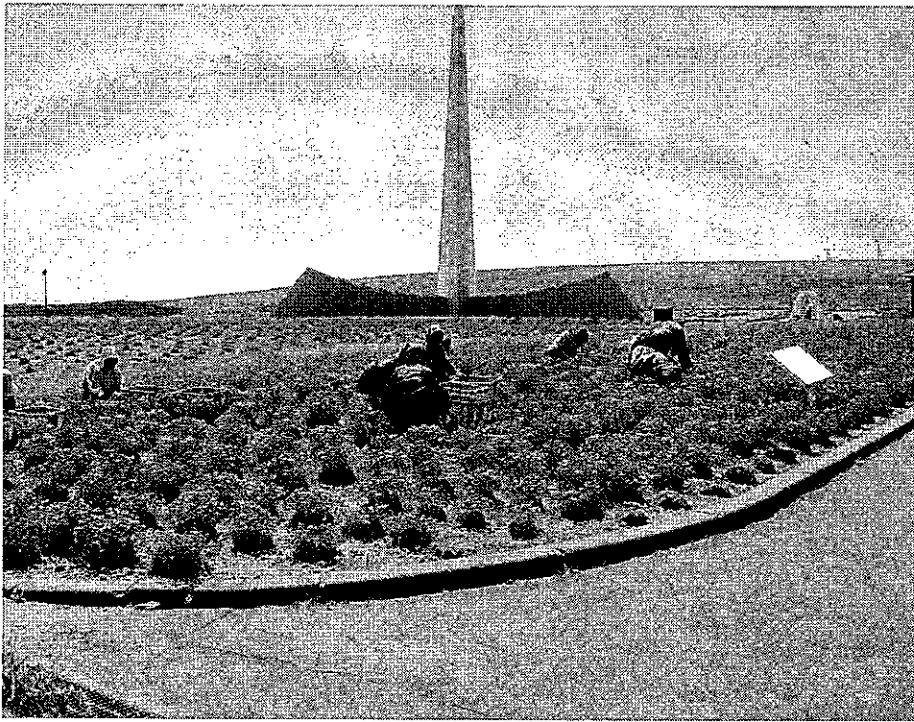
アメリカ植栽事業 植込株数推移

株

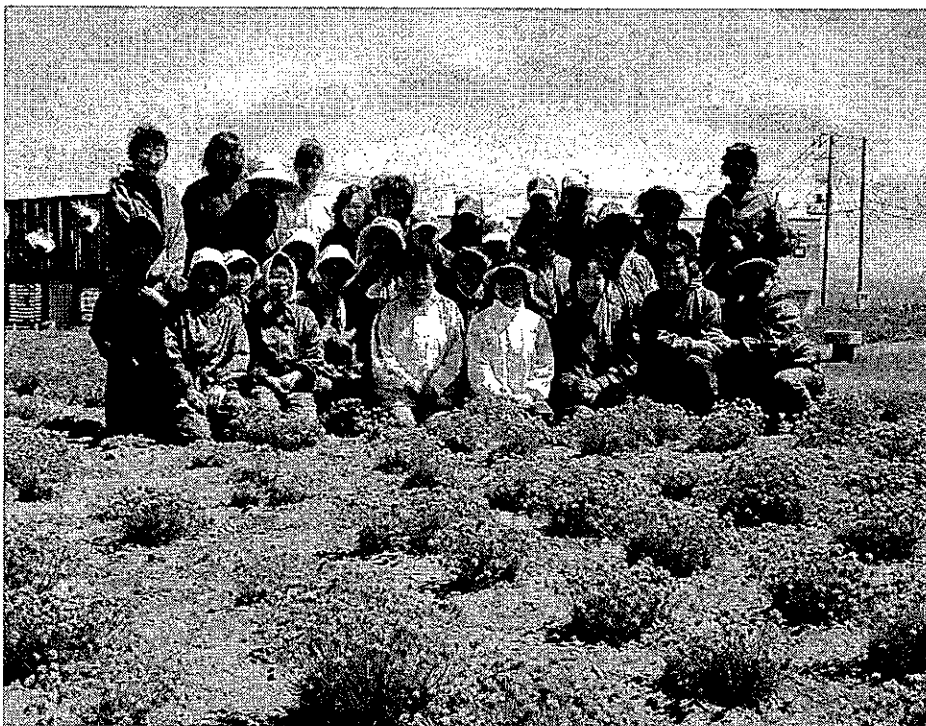




祈りの塔と一面に咲くアルメリア



草むしり作業 浜の仕事の合間に一年中行っている



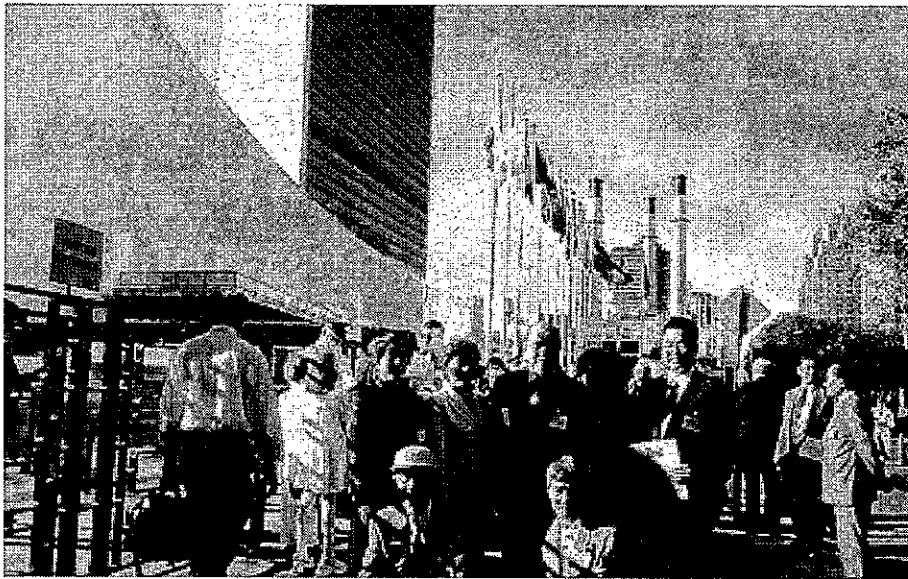
きれいに咲いたアルメリア畑の中で女性部員の顔にも笑顔が咲く



『世界平和の鐘』設置を記念したレセプションにて
世界中50カ国の人々を集めて盛大に開催された



ニューヨーク国連本部中庭に設置されている『平和の鐘』
日本政府から寄贈されたもので、日本風の様式になっている



2001年9月11日、鐘打式開会前の国連本部前にて



アントニオ猪木参議院議員（当時）も出席した
この直後、国連本部から数キロ離れた世界貿易センタービルで
同時多発テロが起きた